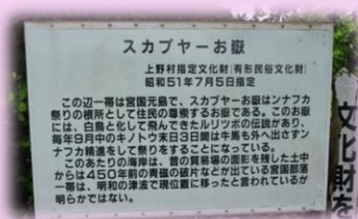
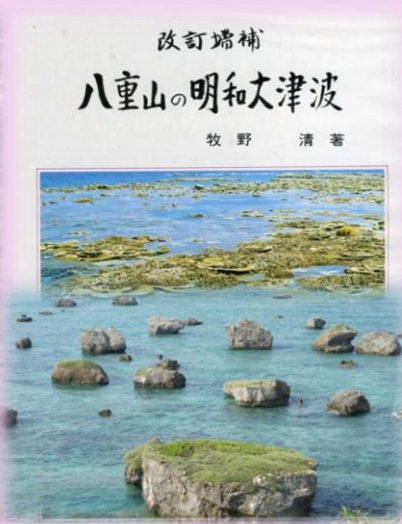
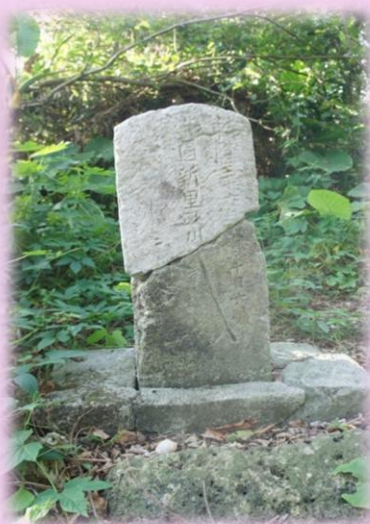


# 沖縄防災環境学会 研究発表会

伝承・古文書・遺跡・堆積物調査  
が明かす歴史津波の実態と教訓

平成24年9月11日(火) 午前 9時30分—5時  
琉球大学 法文学部 新棟114教室



主催：沖縄防災環境学会

共催：島嶼防災研究センター・トヨタ財団研究助成

連絡先：[enakaza@tec.u-ryukyu.ac.jp](mailto:enakaza@tec.u-ryukyu.ac.jp) Tel 098-895-8673 fax 8677

後援：沖縄タイムス社・琉球新報、NHK沖縄

沖縄テレビ、琉球放送、琉球朝日放送

# 発表プログラム

＜午前の部＞9：30～12：00

豊見山和行：前近代琉球の災害史について

－環境社会史の視座から－

玉城 毅：ソーシャルキャピタルと災害

－人のつながりが災害対策－

宮城清志：地図リテラシーと減災リテラシーの創造と普及

休憩（10分）

麻生伸一：近世琉球の災害と祈りに関する覚書き

深澤秋人：久米島周辺における棉子生産体制と災害

山田浩世：気候変動と沖縄の災害—1780年代を考える

＜午後の部＞13：30～17：00

盛本 勲：友利元島遺跡が証す明和大津波

久貝弥嗣：宮古における地震・津波に関する研究動向

仲座栄三：堆積物調査が証す琉球列島における歴史上最大の津波

休憩（10分）

山本正昭：木泊村跡確認調査概要報告

得能壽美：八重山の集落形態と災害リスクへの対応

－明和津波後の集落移転を中心に－

稲垣賢人：GIS解析が明かす大津波後の防潮林

休憩（10分）

質疑及び総括討論（15：50～16：50）

ポスター及び概要発表のみ

中村衛：津波堆積物調査から明らかになった宮古・八重山諸島の巨大津波

平良勝保：普門好善の伝承と津波、その年代の検討（覚書）

沖縄防災環境学会